

2020年に向けた 保土谷化学グループのCSRマネジメント

コミットメント
5

すべてのステークホルダーからの信頼を 維持・強化し、社会の発展に貢献します

基本的な考え方

保土谷化学グループは、CSR(企業の社会的責任: Corporate Social Responsibility)を、中期経営計画“HONKI 2020”の施策のひとつとしてしております。

この施策のもと、CSRを「企業が事業活動において利益だけでなく、地域社会・取引先・株主・従業員などの、さまざまなステークホルダーとの関係を重視しながら果たす、社会的責任」と考え、「コーポレートガバナンス」、「レスポンシブル・ケア」、「ステークホルダー・コミュニケーション」を活動の3本の柱として、全役員・従業員が積極的に取り組んでおります。

CSR活動の重点課題と計画

CSR活動の重点課題を策定するにあたり、ステークホルダーにとっての重要性をISO26000*の7つの中核課題とし、“HONKI 2020”に合わせた「2020年のありたい姿」と課題を抽出しました。

これら課題のうち、当社にとって重要性の高いものを重点課題とし、年度計画を策定して行動しております。

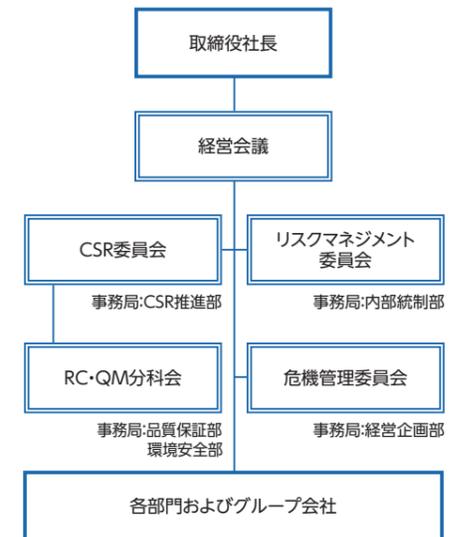
CONTENTS	ISO26000 7つの中核課題	2020年のありたい姿	関連するSDGs	重点課題	2018年度実績	2019年度計画
中期経営計画		中期計画を達成し、安定的・継続的な配当を行っている	8	中期経営計画の達成	6つの施策に基づいた各種課題の解決策を実施	各種施策の確実な実施
Governance (ガバナンス) P23~	組織統治	リスク回避の「守りのガバナンス」とアップサイドチャンス獲得の「攻めのガバナンス」を両立し、成長を継続している	16	コーポレートガバナンスの向上	2018年12月コーポレートガバナンス報告書を公開	コーポレートガバナンス・コードへの継続的対応 指名・報酬委員会の設置
		コンプライアンス意識が浸透し、変化する社会規範に対応している	16 17	コンプライアンスマインドの浸透	コンプライアンス研修を 2018年8月、2019年2月に実施	コンプライアンス研修の実施
		特に取引先と接する部門を中心に、 コンプライアンス意識がよりいっそう浸透している	16 17	ビジネスコンプライアンス知識の向上	ビジネス・コンプライアンス検定を管理職全員が 受験し、資格取得率96%	ビジネス・コンプライアンス検定を、管理職に加え 主任級も全員が受験し、社員の取得率向上
		CSRマインドが浸透し、ESG経営を実現している	16 17	CSR活動の啓発	統合報告書を用いたCSR教育を実施	CSRマインドの向上
Responsible Care (レスポンシブル・ケア) P27~	環境	環境負荷削減を推進し、社会から評価されている	6 11 12 14	環境負荷削減の推進	グループ会社の保土谷建材株式会社も エコレールマーク認定取得	環境負荷物質の排出量の削減
		原単位および総量での電力使用量、水使用量の削減が進み、 社会に貢献している	6 7 9 13	省エネルギーの推進	更新に合わせ、省エネルギー機器を導入	省エネルギー機器の導入を推進
		化学物質に関する規制法令を遵守し、化学物質が適正に管理されている	3 12	化学物質管理の充実	化学物質総合管理システムの構築範囲を グループ会社に拡大	化学物質に対する自主管理の取り組みの強化
		無事故・無災害を継続し、社会から信頼されている	8	保安・防災の徹底	各工場で、RC実施計画に沿った教育を 計画に従って実施	設備保全教育、安全教育の実施
Stakeholder Communication (ステークホルダー・ コミュニケーション) P35~	消費者課題	安全で高品質な製品の供給を継続し、取引先から評価されている	12	安全で高品質な製品の供給	当社材料使用企業から環境対応型の製品が上市	品質管理体制の強化
		環境や社会に貢献する製品を開発し普及させ、 取引先から評価されている	8 9 12 17	社会に対して有用性の高い製品の開発	製品開発のため、大学との共同研究を実施	大学・企業との共同研究の実施
	公正な事業慣行	取引先担当ラインの「お客様第一」の姿勢 および業務知識・スキルが向上し、取引先から評価されている	4 12	取引先を担当する社員の対応レベルの向上	職掌・職位別教育・研修を計画通り実施	職掌・職位別教育・研修を実施
		適時適切な情報開示を実施し、 株主・投資家と「対話(エンゲージメント)」を深めている	12 16 17	情報開示の充実と「対話」の推進	2018年10月英語版統合報告書の新規発行と ホームページリニューアル	統合報告書の継続発行
人権	CSR調達方針に基づき、 取引先の環境・人権・労働慣行を考慮した調達を実施している	1 8	サプライチェーンにおけるCSRの推進	公開した「調達方針」「調達ガイドライン」を 訪問監査に併せ、サプライヤーに説明	当社調達方針のサプライヤーへの浸透の継続	
	人権尊重の意識が徹底され、ハラスメント等が発生していない	1 5 10	人権啓発活動の推進	コンプライアンス研修にて人権教育を実施	人権教育の継続実施	
労働慣行	ワークライフバランスが推進され、 仕事と生活(育児・介護を含む)の両立が図られている	5 8 10 12	働きやすい職場づくり	「再雇用希望者登録制度」を新規導入	ワークライフバランスの推進	
	会社従業員が健康にいきいきと働いている	3	会社従業員の健康管理を推進	メンタルヘルスチェックを継続実施	健康維持とケア体制の強化	
コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展	ダイバーシティの推進と公平公正な人事処遇により、 職場が活性化し、グローバル人材が育っている	4 5 8 10	人材育成・活性化プログラムの推進	各種教育プログラムを計画通り実施	各種教育プログラムの実施	
	事業所における社会貢献活動を推進し、 地域において理解・評価されている	4 6 11 17	地域貢献活動の推進	化学を通じた子供たちの育成をテーマに、 近隣小学校への出前授業等を実施	各種貢献活動の実施	
		ボランティア活動のマインドが向上し、 各種のボランティア活動に積極的に参加している	4 6 15 17	ボランティア活動の着手・推進	工場近隣の森林・河川等のグリーン活動への参画	当社に相応しい新しいボランティア活動の検討・実施

CSR推進組織

保土谷化学グループがCSRをより積極的に推進していくためCSR委員会を設置し、基本方針に基づいた具体的施策の審議・決定および進捗状況の確認をしております。

CSR活動の一環であるRC活動を推進するため、CSR委員会の下部組織としてRC・QM分科会を設置し、化学メーカーの信頼性の根幹にかかわる品質保証および環境・安全の諸施策を推進しております。また、2018年10月に、機能、役割および責任を明確にするため、「環境・安全・品質保証部」を、「品質保証部」と「環境安全部」に再編しました。

コーポレートガバナンスもCSR活動の重要な要素と考えており、特にリスク管理についてはリスクマネジメント委員会を設置し、リスクの特定、重要リスクの対策を策定・実行し、リスクの事前予防を図っております。



保土谷化学グループの
CSRマネジメント